

高校生 ICT Conference 2014

～考えよう！これからのスマートなネットの使い方・あり方～

高校生 ICT Conference 2014 in 大分 熟議録

第一回 2014年8月30日(土)

【会場】ホルトホール大分

主催・共催

一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構

安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

2014年8月30日

第1版

1. 高校生 ICT Conference 2014 in 大分 第一回 熟議グループ概要	1
2. 熟議録.....	3
■ 第1班.....	3
■ 第2班.....	3
■ 第3班.....	5
■ 第4班.....	6
■ 第5班.....	7

1. 高校生 ICT Conference 2014 in 大分 第一回 熟議グループ概要

熟議テーマ：	「小中学生に伝えたい 情報モラル」
日時：	2014年8月30日（土）13:30-17:45
場所：	ホルトホール大分
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）</p> <p>【第1班】9人 大分国際情報高等学校 2年 女子 大分県立大分南高等学校 2年 女子 大分県立別府青山高等学校 3年 男子 大分県立別府青山高等学校 3年 女子 大分県立宇佐産業科学高等学校 3年 男子 大分国際情報高等学校 1年 男子 大分県立大分鶴崎高等学校 3年 男子 大分県立大分工業高等学校 3年 男子 大分県立大分南高等学校 3年 男子 [ファシリテーター] 公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 七條 麻衣子 [書記] 大分国際情報高等学校 教諭 森竹 悠介</p> <p>【第2班】9人 大分県立情報科学高等学校 2年 女子 大分県立別府青山高等学校 3年 女子 大分県立別府青山高等学校 3年 男子 大分県立大分舞鶴高等学校 1年 男子 大分県立大分南高等学校 2年 女子 大分県立大分雄城台高等学校 1年 女子 大分県立大分工業高等学校 3年 男子 大分国際情報高等学校 1年 男子 大分県立佐伯鶴城高等学校 1年 男子 [ファシリテーター] 公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 共同研究員 兼 大分県立芸術文化短期大学特任教授 凍田和美 [書記] 大分大学 首藤 麻衣</p> <p>【第3班】9人 大分県立大分雄城台高等学校 1年 女子 大分県立大分雄城台高等学校 1年 女子 大分県立情報科学高等学校 2年 女子 大分県立情報科学高等学校 3年 女子</p>

大分県立大分舞鶴高等学校 1年 女子
大分県立佐伯鶴城高等学校 1年 男子
大分県立佐伯鶴城高等学校 1年 男子
大分県立大分豊府高等学校 2年 男子
大分県立由布高等学校 3年 男子
〔ファシリテーター〕
大分県立別府青山高等学校 教諭 畑野 新司
〔書記〕
公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 芳崎 哲也

【第4班】8人

大分県立大分舞鶴高等学校 1年 女子
大分県立情報科学高等学校 2年 女子
大分県立大分雄城台高等学校 1年 女子
大分県立大分雄城台高等学校 1年 女子
大分県立由布高等学校 3年 女子
大分県立由布高等学校 3年 女子
大分県立大分豊府高等学校 2年 男子
大分県立大分工業高等学校 3年 男子
〔ファシリテーター〕
大分県立大分豊府高等学校 教諭 釘宮 教行
〔書記〕
公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 原田 美織

【第5班】8人

大分県立情報科学高等学校 2年 女子
大分国際情報高等学校 2年 女子
大分県立大分工業高等学校 3年 男子
大分県立由布高等学校 3年 男子
大分県立由布高等学校 3年 女子
大分県立宇佐産業科学高等学校 3年 男子
大分国際情報高等学校 1年 男子
大分県立大分南高等学校 3年 男子
〔ファシリテーター〕
公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 渡辺 律子
〔書記〕
中津市教育委員会 黒川 智子

2. 熟議録

■ 第1班

F『前に記載されているテーマに沿って進めていきます。まずは自分が思いつく課題やトラブル等について青い付箋に書いてください。1つのテーマについて1枚です。書いた付箋を模造紙に貼ってください。同じテーマのものは集めてみてください』

F『誰かみんなの中でリーダーを決めて下さい』

SL「同じものがあれば分けてください。LINE関係のものや悪口、なりすましなどで集めて貼って下さい」

出来上がったグループ

- ・LINE
- ・悪口

F『いろいろな問題が挙がりましたね。サービスの分類だけではなく、気持ちに関する問題、モラルの問題、仕組みやシステムの問題等ありますが、どうやって分ければいいかな？自分達よりも年下の子たちに、今ある問題を教えないといけないので、もう少しわかりやすくなるかな？みんなで話してみてください』

F『まずは囲ってみよう。一言でまとまらなくてもいいので、思っていることを書いてみよう』

出来上がったグループ（テーマ）

- ・システム（LINE、Twitter、Facebook など）
- ・悪口
- ・感情面、見られたくない

F『この模造紙と付箋をどうやって伝えようか？小中学生に伝えることを考えてください。自分達は先生のもりでどうやって伝えたいか考えてください』

SL「使っているアプリとかでそれぞれ3つのチームに分かれて、どうやって伝えるか、ピンクの付箋にそれぞれ書いてください」

F『考える際には、なぜそのような事が起きたのかがヒントになるので、グループごとに話し合ってください。まずは、どうしてそのようなことが起きるのかも赤い付箋に書いてみてください。先輩から伝えたい想いも考えてみてください』

（システム、悪口、感情面についてそれぞれグループで話し合い）

F『つながる自由、つながらない自由、”選ぶ自由”があることをうまく説明してあげないとね。そろそろ本番用紙に書いてください。このようなことを伝えたい、というように考えてください』

S「まず、何を伝えたいか決めよう。問題点を書いて、その下に解決策を書こう。システムの問題や悪口の問題、感情面の問題など」

F『模造紙には全部書かなくてもよくて、伝えきれないことは発表の際に言葉で伝えてください』

<終>

F=ファシリテータ・J=事業者・W=書記・T=教員・SL=生徒リーダー・S=生徒

■ 第2班

F『今までネット関係で経験したこと、問題点、どうしてその問題を挙げたのかを、青い付箋に書き出してみましよう。具体的な問題でもいいですよ。高校生として自分たちが関係した問題が書けるとよいですね。他の人と比べて考えてもよいと思います。自分のことだけでなく友達のことでもいいですよ。こういうことに困ったとか』

S「スマホの使い方を早い段階から子どもに教えることが大切だと思う。早い方が危険なこと、便利なことがしっかりとわかると思う。スマホは自分のつながっている世界だけではなくて、発信したら違う世界までつながることを知らせたい」

S「個人情報の流出、相手の考え、表情が読み取れないことが問題だと思う」

S「ネット依存をしている小中学生が多いこと、日常会話の際にもスマホをさわっている人がいること、表情が見えないから日常会話では冗談で終わっても、SNS上だと冗談では済まない事が問題だと思う」

S「SNSだと声が聞こえないから相手の表情もわからず、うまく気持ちが伝えられない問題がある。長時間の使用で目にも悪くなるので問題だと思う。お金のトラブルも問題だと思う。ワンクリック詐欺だと小中学生は気軽に押ししてしまうので問題だと思う」

S「友達だけに送った情報を友達が勝手に配信している。特定の人をグループから外していじめになることが問題だと思う。文字だけだと表情が伝わらず、人間関係が悪くなることもある」

S「フィッシング詐欺は手の込んだ詐欺になっていて小中学生にはとても危険である。SNSなどの人間関係で相手の顔が見えない。個人情報の流出や掲示板で、一度ネット上に載ると二度と取り去ることができないことが問題だと思う。例えばLINEの長時間使用で、夜眠れなくなって次の日に支障をきたすことが問題だと思う」

S「フィルタリング機能は親がつけるものだけど、親がわかっていないことがある。だからフィッシング詐欺に発展する。周りも分かっていない事が問題だと思う。ウイルスに感染することも問題だと思う。ウイルス対策をしないと個人情報流出してしまう。自分も被害者でさらに被害者も増やしてしまう」

S「表情が見えなくなっていざごに発展する。親に知識がないから、子どもにスマホを持たせるとトラブルが起こってしまう」

F『いろいろな意見が出ましたが、他の人の意見を聞いて付け加えとかありますか』

S「大人がスマホについて知らないことについて、高校生がスマホについて便利なところや危険なところを伝えられたらいいと思う」

S「お金の面について小中学生に教えられたらいいと思う」

S「高校生の年代になると悪口を直接言うことは減るけど、小中学生は軽い考えで悪口を SNS 上に載せてしまう」

S「親がよく分かってなくて子どもにスマホを買ってしまう。親も一緒に使い方を考えて使うといいと思う」

S「スマホについてよくわかっている世代が伝えて、小中学生で共有できたらいいと思う」

S「親がネットについて分かっていないとトラブルに巻き込まれやすくなる。親がわかっているとトラブルに巻き込まれることが減ってくる。「親から子どもに伝えてください。」というのも高校生にもできると思う」

S「スマホを持ってない少数派の人がいじめられることもある。スマホを持っていることが当たり前という概念が浸透していることも問題だと思う。もともと小中学生にスマホは必要ないと思う」

F『スマホは小中学生に必要なのか？についてどう思いますか』

S「小学生にはいらないとと思う」

S「これからスマホは必要になるけど管理できないとダメだと思う」

S「大人がスマホについて子どもと一緒に考える事で小学生から持つことができると思う」

S「授業でスマホの使い方を教えるというのはいいと思う。スマホは数学とかと違って知識がゼロだから、スマホをいきなり持たされてもわからなくなる。授業の中で教えるというのはいいと思う」

S「小学生のうちから持たせると便利さだけ覚えてしまって、辞書を使わなくなることがあるかもしれない。健康被害もあるかもしれない。使う際に時間制限を設けるなどしてもいいと思う」

S「確かに依存する危険もあるかもしれない。子ども向けのスマホを作るという考えもあると思う」

F『どうい風に対応するかを考えて、他の話題を広げていきまし

よう』

F『高校生だから言えること、小中学生にどうい風に伝えればよいか、赤い付箋に書き出してみましょう。1つ目は、ネットが世界中に繋がっている事について書いてみましょう。どうい手段を使って伝えるかも考えてみましょう』

S「子どもに対応したスマホを本格的に導入したらいいと思う。ソフトバンクさんや au さんに作ってもらったら、充分小中学生に使ってもらってもいいと思う」

F『「こうい風に伝えたら子どもにわかてもらえるよ。」という事を考えてみましょう。他の話題、健康に対してでもいいですよ。一般的に言われているのは、モラル的に伝えるのと技術的に伝えるのと決まりとして伝えるのがあると思います。この3つの方向で考えるといいと思います。後は教育的に伝えるというのがあると思いますが、出来るだけ高校生として考えるのがいいと思います』

S「自分たちの体験談を話すことが一番いいと思う」

F『体験談をどう伝えるといいと思う？』

S「「他県では劇にするのがいいと思う。」という意見が出ていたそうです」

S「授業で体験をしていたのがあったけど、それを小中学生が日頃から体験できるといいと思う。さらに劇とかで伝えられたらいいと思う」

F『自分たちが小中学生のときにこんなのがあったらよかったのというのを挙げられるとよいですね』

S「家でルールをつくっても、Twitter や LINE の投稿を親が見られるわけではない。最近投稿の通知サービスがあるらしいから、それをもっと本格的に導入すべきだと思う。それがルールの徹底にもつながると思う」

S「高校生だからできるんじゃないかと、僕たちだからこそできるという考えでもいいと思う」

S「自分たちが、直接小中学校に出向くという方法があると思う。直接子どもに訴えかけることができる。あとは、大人に対してを考えないといけない」

S「親と子どもが一緒にいたらいいんじゃないかな」

S「最終的には自分たちから広げるという形ですよな」

S「そういう形でまとめるでいいかな」

S「いいと思う」

F『自分たちでするのは限度がありますよね。』

S「だからこそ自分たちで動いて協力を求めることが大切だと思う」

F『みんなを巻き込むという形だね』

F『どういう風にまとめますか。文字、絵がありますね。これは伝わりやすいまとめ方がいいですね』

S「新聞方式と箇条書きにしますか」

S「みんなで授業形式でもいいですね」

S「3分しか発表時間がないから、授業はどういう風にするかだけ考えましょう」

S「小学生に伝えることと親に伝えること、企業に協力してもらうことにしましょう」

S「メインは小中学生にして、後で企業について付け加えましょう」

F『まずは何をするかを書きましょう』

S「最初に小中学生に伝えたいことを書いて、それを踏まえて親や企業に伝えたいことを書こう」

S「一番出ている意見を書こう。一番は相手に伝わりにくいこと」

S「お金もあるね」

S「自分でどうにかなることと自分でどうにもならないこと、例えば親に迷惑になるとかを分けよう」

S「健康問題は どうする？」

S「健康は自分でどうにかなると思う」

S「ここからどうやってまとめる？」

S「一番は、個人情報やお金に関する問題で取り返しがつかなくなっていることが問題だと思う」

S「悪いことばかりに今なっているから、いいことも伝えた方がいいと思う」

S「個人情報、言動、責任を自分たちで理解できれば、スマホを使うことができると思う」

S「それを劇とかで伝えられたらいいと思う」

S「親にも自分にもかなりの迷惑がかかることを赤で書く」

S「健康についてはネットを長時間しないことにつながる」

S「ネットを長時間使用しないことを親との約束に含めたらいいと思う」

S「どのように伝えるかについては、高校生が出向いて自分たちの体験談を伝える」

S「高校生が出向いて劇や体験談を交えて伝える」

S「親も一緒に聞く」

S「この活動を広めていくといいと思う。企業に広めていく」

<終>

F=ファシリテータ・J=事業者・W=書記・T=教員・SL=生徒リーダー・S=生徒

■ 第3班

F『これまで使ってきて困った事、間違っていたなと思うこと。または、気を付けている事をポストイットに1人3枚、何でも書いて下さい。それを模造紙に貼って下さい』

F『似たような意見を、集めてグループ名を付けて下さい。こんな集まりですと説明できるようなグループ名を付けましょう』

F『LINE。写真を通じたのトラブル。情報が多すぎる。知らない人とのSNSでのトラブル。誤解を生む。のグループが出来ました。ではまずLINEについての意見を出して下さい』

S「LINEなりすましについてニュースに出ているし、みんな知っている事だし、だから対策はしっかりしないと」

S「LINEのタイムライン上で悪口を言うと皆に広まる」

S「揉めるのは言い方次第」

F『次に写真を通じたのトラブルについて意見をだして下さい』

S「Twitterに無断で写真をのせられた事がある、すごく嫌な気持ちになった」

F『情報が多すぎる、これについて意見を』

S「調べているのに、違う情報が入ってくる」

S「公式のサイトを確かめる」

F『知らない人とのSNSでのトラブルについて意見を出して下さい』

S「Twitter上での金銭トラブルは友達から聞いた事があるが、実体験はない」

F『誤解を生む、これについて意見を』

S「冗談のつもりで言ってもネット上では顔が見えないから、トラブルの原因になってしまう」

F『それではこの中から、皆さんがこれなら小中学生に伝えられるものを選んで下さい』

S「LINEなら伝える事が出来ると思う」

F『LINEについてに決まったので、小中学生が気を付けるべき点を出し合ってください』

S「なにか起きた時には相談出来る人が必要だと思う」

S「親が知らなければ意味がない。親にも教育が必要、親は自分達より知識をもっていないと思う」

S「ワンクリック請求などの危険性は、高校生ならわかるけど小学生にはわからないと思う、その危険をわからせる為にはどうすればいいだろう？」

S「大人の啓発活動、実際に画面をみせて説明するような講習会のような物が必要だと思う」

S「実際に体験して反省から学ぶべき」

S「1週間に1度、情報端末の授業をするべき」
 S「クラスに1台、授業用、実験用のスマホがあるといい」
 S「自分から悪口をいわないのは基本」
 S「悪口に便乗しない」
 S「悪口が出たら、話題を変えるか無視をする」
 <終>

 F=ファシリテータ・J=事業者・W=書記・T=教員・SL=生徒リーダー・
 S=生徒

■ 第4班

F『進行役を決めましょう！』
 SL「青い付箋を配るので、自分が考えるネット関係の課題や問題点を書き出してみてください」
 SL「3分経ちましたがどうですか？後半重そうなテーマがあるので、急いで進めます」
 SL「似たような内容を集めて貼り付けてください。似たものを分類して発表しましょう」
 S「SNSを使えば、話せばすぐ終わることに時間かかる」
 S「「携帯持ってるから後で連絡するわ。」と言って別れると、あとで連絡が入らず困る」
 S「Twitterとかで個人名を挙げずに嫌いとか書いていて、自分のことかなと思う」
 S「深夜までSNSを使っているユーザーの問題、自分も3時まで使っていたことがある。反省している」
 S「保護者が管理せずにタブレットを幼いうちから渡すことがどうかと思う」
 S「LINEの使い方、いじめで自殺している問題」
 S「ネットショッピングなどで大量に買い物をしすぎてしまって、負債を抱えるなどの問題」
 SL「2つに分類できると思う。1つ目は、SNS関係で文字だけだと感情が伝わりにくいかは、人間関係として分類。2つ目は、ネット年齢の低年齢化と、保護者のネット教育として分類」
 (分類作業)
 SL「まとめましょう。1：誹謗中傷。2：時間の問題。3：情報格差。4：ネットの低年齢化と保護者の教育。その他：ネットショッピングと電波がないで困る。でどうでしょう？」
 F『封筒に貼っている付箋を封筒ごと回して、説明してもらったほうがいいのかもね』
 SL「次はそうします」

SL「では、テーマ2について考えていきましょう。テーマ2は、小中学生の皆さんに高校生ができる（高校生の強み！）情報モラル教育です。赤い付箋を配るので書き出してみてください」
 S「高校生の強みなどあるのかな？」
 S「一番大きいのはいじめ問題だと思う」
 S「それを考えるのは大事だと思う」
 SL「そろそろ時間ですが、どうですか？」
 S「僕は、小学生が保護者の力を借りずに、携帯等をどう扱えるかを考えるべきだと思うので、小学生だと、いじめがはじまってしまったら、どうしても一緒にやってしまうと思う。だからそれをどう止めるかだと思う」
 SL「小学生から携帯やスマホを使っていた人はどのくらいいますか？」
 (該当者なし)
 F『今の小学生つってもってるよね』
 S「かわいくないね(笑)」
 F『大人が子どもたちに教えることはできるけど、実感をもった体験、経験を伝えられるのは、実際に学校生活で使っている、彼らに近い立場の高校生だと思う。説得力がよります事例を踏まえたアドバイスなどを考えてほしい』
 S「自分たちがSNSを使ったことを通して、経験したことを伝えるのが良いと思う。でも、それって、小学生には難しいかもしれないから、そこが難しい」
 S「大人がいう、あれダメ、これダメは、こじつけ見たく感じる。大人が子供のころから使っていたわけでもないし…高校生の自分たちは、なぜダメなのか、経験を元に伝えられるから、そこを具体的に伝えていけばいいのかな？」
 S「携帯だけでなく、生活に置き換えて伝えられるのではないかな？」
 S「小中学生だったら、保護者のことが大好きじゃないですか。保護者が、結局悪い目にあうとか、保護者のためには、守らないといけないという伝え方はどうか？」
 S「ネットショッピングにつながる話、先輩は10万円使ってしまったと聞いた」
 F『1つの視点として、君たちが親になったら、自分の子を持ったことをイメージして、子供にどのように説得するか、どう伝えたらよいかを考えると、わかりやすいかもしれない』
 S「小学校の時から、家の中ばかりで、携帯を使っていたら、集団で実際に何をやるかというところが、適応できないと思う」
 S「高校生の強みを先に出したらどうか。まだ、小中学生と一緒に保護者に守ってもらう立場だから、保護者に迷惑がかかる、こう

いうことをすると、加害者になっちゃうという立場で話を進めるのはどうか？」

SL「他にありますか？」

S「重要なやりとりはネット上であまりしないようにする。遊びで使う、大事なことは学校で話す」

SL「やっぱり高校生の強みは、話題が軽かったり、加害者になりやすいという側面も踏まえて、小中学生に近い、同じような環境の目線になれるというところが強みですね。今まで出たのが、今までの事件などの悪い例を伝えること。ゲーム課金などでた事件を伝えること。悪い例を示す。だったと思う」

SL「テーマ1では、時間のこと、いじめ。保護者の場合は、ネットショッピングの事例を伝える。持たせる場合、持たせない場合で分けて考えると、持たせない、いじめなどにつながるケース、可能性がある。だけど、持たせるとネットショッピングでお金を使いすぎるなどのリスクがあること、時間の管理ができずに使ってしまう場合があることなどを伝えることが挙げたと思う。

他に伝えられることはあるかな？」

S「携帯じゃなくても、違う方法でよいと思う」

SL「この後の発表は、小中学生に向けて伝えると思って話すのですか？」

F『こう伝えられればいいと思うということを発表内容としてまとめる』

S「授業のように講義形式で伝えるのではなく、疑似体験出来る形式（体験シミュレーション）で伝えた方がよいと思う」

S「その体験シミュレーションを今日作るわけではないのですよね？」

F『このような伝え方をしたいということを発表する』

SL「他に伝え方で意見はありませんか？なければ、次に行きます」

F『少し休憩をとって、発表のときにどのように発表するかの構想をねって、余裕があれば、練習までしてみよう。実際に模造紙に貼っていくと、抜けていた議論とかが、また出てくるかもしれない』

SL「じゃあ今までの議論をまとめてみよう。どういう事件事故があったのか？周囲にどういう迷惑がかかるのか？かな？」

S「高校生の強みは、子どもに近い目線で話せるということだと思う」

SL「模造紙には、携帯やスマホを持たせる場合に、どういうことを伝えるか？持たせない場合は、どのように説得するのか？を書いていこう」

S「それと高校生の強みも書くべきだと思う」

S「まず、高校生の強みを先に書いた方がよいと思う」

F『最初は、封筒の裏や白い紙に、構想案をそれぞれ書いてみたらいいよ』

SL「それでは、まず高校生の強みをそれぞれ書く案をまとめてください。全員のを見てみて、それで良い案を使います。」

S「3分しかないから、図の方がよいのではないか？」

F『ポイントは、模造紙はイメージでパーンと伝わるようなものにする。伝える内容が文章であるときは、それは言葉で伝える。模造紙を読まないといけないというような発表の仕方は、あまりかっこよくない』

S「発表が3分しかないので、キーワードを書いて、矢印でつなぐような方法が良いかと思います」

S「模造紙は横にしますか？縦にしますか？」

SL「模造紙を持って前にでるらしいので、縦に書きましょう。」

S「どんなデザインにしますか？何か考えた人いますか？」

(該当者なし)

F『班独自のテーマを決めていいと思うよ。どういう風に伝えたいか。具体的な方法を伝えたほうがよいと思う。君たちが、小学校に直接出向いたときにどうやって伝えたらよいか、イメージしてみたらいいと思う』

SL「模造紙を書いてもらっている間に、人間関係とかの議論を同時進行で進めましょう。携帯持たせない場合の子供にどう納得させようか？」

S「伝え方、小学生たちが見る、聞くだけでなく、体を動かして、受ける方が、イメージできると思う」

F『そろそろまとめていかないといけないよ！伝え方、どういう手段で伝えるか？それから伝える内容。今は「なぜ？」がないよ。このままじゃ伝わらないよ。小中学生に近い、同じような目線で伝えることができるということを伝えてみたらどうか？』

S「時間がないので、問題点を箇条書きにしましょう。急ごう！」
<終>

F=ファシリテータ・J=事業者・W=書記・T=教員・SL=生徒リーダー・S=生徒

■ 第5班

F『ネット環境を使っている時の課題とか問題点とかを青い付箋に書きましょう。』

S「LINEのグループチャットでの悪口」

S「ゲームの招待がうるさい」

S「メアドを聞かないので電波が届かない時に困る」

S「Twitterに人の顔写真を勝手に載せること」

S「返信に追われて勉強の時間がなくなっていく」

S「アカウントの乗っ取り」

S「磁気などの健康被害」

S「相手の既読無視での人間関係」

S「LINEで直ぐに返事をしないといけないと思ってしまって本当に思っていることでないことを言ってしまう」

S「文字で伝えるのと話して伝えるのでは感じ方が違う」

F『似たようなものを集め分けて、タイトルを付けていこう。例えば「個人情報」でまとめるとすれば、写真の情報など。これは自分のものだけなの？』

S「自分のものも、人のものも自分以外の人が人のものを載せる。他人が自分のものを載せる」

F『人のというのと自分のという捉え方がわかりにくい？』

S「自分のものとしたら「管理をきちんとする」ことが重要」

F『見出しをつけよう』

S「個人情報の管理」

F『人のものも自分のものということ』

F『2つ目に多かったもの、LINEについて。使っている人は？』
(全員使っている)

F『何が問題？』

S「悪口というかからかっている。高校生なので悪口は直接言わない。遠回しに言う。グループ外しをして別のグループをつくる。など」

S「忙しくてLINEに入れない人もいるのに」

S「クラスとして作っているが全員入っていない。招待されていない人も居る」

S「ネット内でのキャラクターがリアルに影響する」

S「グループチャットで話すタイプだったとしてもリアルではおとなしい人とかもいる」

F『ネットの中のキャラが見えて困る人もいる？』

S「クラスのグループに招待されていないひとの悪口を言う。一年生の時のほうが盛んにしていたような気がする」

S「Twitterは気軽にできるがLINEはしたくない。時間がかかる。だけど、LINEを見ていなくてもTwitterに投稿したらにそこで気づかれる。(読んでいるのに返信してないという勘違い)」

F『タイトルをつけよう』

S「ネットでの人間関係？」

S「ネットでの関係」

S「ネットをやっている時間が長い方が学力テストの点数が低いというデータがでましたというニュースがあった」

F『自分のこと？』

S「LINEがきたら勉強しても見てしまう。携帯に気を取られるので勉強に集中できない」

S「携帯を切って勉強する。でも切っても気になる。来ているのがわかるから。」

F『我慢できる？』

S「気になる、見ないといけないと思う」

F『割り切っている人は居ない？』

S「今から勉強するとみんなにお知らせしてから勉強する」

F『あとで小中学生に伝えるときに事例として今の話を話そう！皆さんは今の話で学力が下がったと思う？』

S「上がりも下がりもしない」

F『スマホがあるから？これが原因？』

S「家にいるときにはすることがないのでケータイを触る」

F『学力低下よりも使い方という話がよいのでは？』

S「利用時間の問題」

F『文字だけだと伝えにくいことがある？』

S「文字だと冗談で言っていることが伝わらない。人によって捉え方が違う。絵文字がついていないと怒っているような気がする」

F『そういう経験はありますか？』

S「ある人が多いと思う」

F『LINEの人の話の中にあっただけど、嫌な言い方だと思った事はある？』

S「やりとりして本人と普通に話す事を考えて自分の中でその人のことをわかっていけば割りきって対応できると思う。男子はあまり気にならない？男女の違いがあったりするかな？」

S「人による気がする」

F『意見が多かったものはまとめられたと思う。それじゃあ小中学生にどう伝えていこうか？今使っている高校生だから言えることって多いと思う。ここからはみんなで話を進めてみてください』

S「相手の気持ちになって考えることを知ってほしい。小中学生には”ダメだよ”、よりも自分の経験を踏まえてこういう風にしたほうが良いよと話したらいいと思う」

S「例えば、悪口になって相手に見られないと思っていても、スクショ(スクリーンショット)とかでもみられる可能性がある。誰かに指摘されたら見られる可能性がある」

S「自分が相手の立場になって思いやりを持つなど、自分が相手にどんなことをしてきたのかなども重要だと思います」

S「個人情報を載せないようにする。名前は自分の責任で。それ以外のものは、必要がないときには勝手に載せないようにした方がいいと思う」

S「自分と相手との伝わり方が違うよ、と教える。使う時間に制限をつける。睡眠時間や学習時間を決める、ニュースとかを見るときに比較して間違った報道をしているのを見極める力を持つてほしい」

S「個人情報を守るために写真をアップロードしない。LINE での言葉の使い方でも相手を誤解させてしまう」

S「既読無視などを実際に体験していることなのでそれを伝える」

S「なんでそれが悪いことだと思うのか。相手の立場になって考えてみることを伝える。自分の立場になってみたらどう思うか」

F『付箋に書いていることをまとめる「こういうことを伝える」って事が重要』

S「体験したことを伝えることができる」

F『高校生ができる情報モラル教育「強み」は「体験したことを伝えられること」 どういうことを小中学生に伝えることを考えていこう』

S「自分が言われた嫌なことを人には言わないようにする」

S「先生とか学校がルールをつくるかどうか？」

F『誰とかではなく「ルールをつくる」でまとめてみよう』

S「自分と相手との間で伝わり方が違う、誤解させてしまう」

F『誤解を招くってこと、みんなはどうしている？』

S「絵文字がないと怒っているのか？相手によっては直接聞いた。話しても LINE でもいいと思う」

S「自分は伝わるように必ず絵文字をつける」

F『高校生の強みを使ってどういうふうに小中学生に伝えるか。わかりやすいようにどういう形で伝えるかまとめましょう』

S「クラスの中でディスカッションをすると、自分とは違うことなどを気づくことが出来ると思う。相手の考えることもなんとなくでも伝わると思う」

F『もし、こういう話し合いをしたらどう伝えるのか？だったら出来そう？』

S「高校生の強みは自分たちがリアルタイムに使っているという経験」

S「低学年にもわかりやすいように劇、紙芝居を使ったり、ディスカッションをして相手の立場になって考えられるように。という事を伝えたい」

<終>

F=ファシリテータ・J=事業者・W=書記・T=教員・SL=生徒リーダー・
S=生徒